

NEWS Letter

第77回日本食道学会学術集会の開催に関して



第77回日本食道学会学術集会 会長
安田 卓司
 (近畿大学医学部外科学教室
 上部消化管部門)

いよいよ第77回の学術集会も間近と迫ってきました。5月8日付でコロナも第5類に格下げになり、様々な制限も大きく緩和されて漸く以前の日常が戻りつつある状況です。しかしこの間に食道癌治療は免疫チェックポイント阻害薬(ICI)の保険適応により、その治療戦略は大きくパラダイムシフトしています。久し振りの現地通常開催で、会場全体を巻き込んでface to faceの熱い議論の火花を飛ばして頂ければ幸いです。それでは今回の学術集会の開催概要、トピックスなどを紹介させて頂きます。

学術集会前日の6月28日は、評議員会の後2つのプレナリーセッションを用意しています。一つは日本食道学会・日本胃癌学会合同ワーキングで実施した食道胃接合部癌に対する前向き臨床試験の長期 follow-upに基づくリンパ節の転移・再発率と郭清indexの最新報告で、もう一つは塩野義製薬主導で実施した食道癌に対する術後補助ペプチドワクチン療法の有用性に関する無作為化第Ⅲ相臨床試験の最終結果の報告です。いずれも注目すべき結果で、是非とも現地で聴講して頂ければと思います。

学術集会第一日目は、4会場に分かれて主題企画：12(悪性/良性/横断:7/4/1)、要望演題：4、教育講演(良性)：1、口演：3のセッションを行う他、総会、理事長講演、会長講演を行う予定です。第二日目も同様に4会場で主題企画：8(悪性/良性:6/2)、ディベート1、教育講演(悪性)：1、要望演題：5、口演：7、ミニオーラル：2のセッションの予定です。今回の企画の特徴は、①第一日目から第二日目の午前中まで食道良性疾患に関するセッションを連続して企画、②第一日目の午後に食道悪性・良性疾患別の全員参加型の症例検討を企画、③食道悪性はcStage I～IVの各進行度別にセッションを企画し、外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療医の先生にできるだけ演者として参加して頂き横断的議論を展開、④海外演者として食道良性は食道運動機能障害のJohn E. Pandolfino先生、食道悪性はICIで有名なIan Chau先生を招聘、⑤教育講演として食道良性はGERDに対する内視鏡治

療の匠の技を、食道悪性は食道外科専門医を目指す先生への教育ビデオを紹介、⑥口演、ポスター共に積極的に外科医に加えて腫瘍内科、病理医の先生にも座長を依頼して議論を活性化、⑦できるだけ同じ領域のセッションが同時刻に被らないようにプログラム編成、⑧紙ポスターでの発表と議論、⑨ポスター会場の混雑緩和のため午前と午後に分けての討論、と多くの工夫を凝らして皆様の参加をお待ちしています。とにかく食道疾患に関わる複数診療科で構成される日本食道学会の良さを全面に打ち出して各診療科の垣根を越えてお互いを知る学術集会になればと期待しています。

ただ、会長の力不足で学術的なこと以外に関しては全く十分なおもてなしをすることができません。夕方にはアルコール類の用意も検討していますので、それまで弾みをつけて、目一杯大阪の夜を満喫して頂ければと期待する次第です。

また、今回は外科以外の内科系、病理、放射線科の先生方にプログラム企画の段階から多大なご協力を頂き、そのお陰で充実した企画ができたと思っています。この場を借りて深く感謝申し上げます。また、多くの演題を登録して頂いた演者の先生、その演題を査読して頂いた司会や座長の先生の皆さんにも心からお礼申し上げます。日本食道学会と我が国の食道疾患治療の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

では、皆さんの熱い思いと白熱した議論で大阪の空が真っ赤に染まるのを期待して、皆さまのお越しをお待ちしています。



評議員会・総会の開催について

令和5年(2023)年度日本食道学会評議員会ならびに社員総会を下記の要領で開催いたしますので、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。なお、招集通知、委任状(ハガキ)は正会員の皆さまへ郵送させていただきました。お手元に届きましたら必ずご確認ください。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

評議員会

【日時】令和5年6月28日(水)
13:30～15:30

社員総会

【日時】令和5年6月29日(木)
13:10～13:40

【場所】大阪国際会議場 10階
「会議室1003」(第1会場)
大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

2023年度 教育セミナーについて

教育委員会委員長 龜井 尚

(東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野)

2023年度の教育セミナーは、以下の講師・講義テーマにてオンデマンド配信形式のWEB開催とすることになりました。いずれも最新の知識を得られる充実したものとなっております。

講師・講義テーマ

1 胃管癌の病態と外科治療

(神戸大学大学院医学研究科外科学講座
食道胃腸外科・押切太郎先生)

2 経鼻内視鏡による頭頸部・食道癌診断

(東京医科歯科大学病院光学医療診療部・
川田研郎先生)

3 GERDの診断と治療 新ガイドラインを踏まえて

(国立国際医療センター消化器内科・秋山純一先生)

ICI治療中にirAEを疑うポイント

(近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門・
川上尚人先生)

頸部食道癌に対する放射線治療

(国立がん研究センター東病院放射線治療科・
全田貞幹先生)

飲酒と食道扁平上皮癌

(国立病院機構久里浜医療センター臨床研究部・
横山顕先生)

会員マイページから申し込みをいただきましたが、テキストは5月下旬に発送いたしました。配信期間は2023年6月1日(木)から8月31日(木)となっております。教育セミナーのWEBシステムでは、全講義動画を100%視聴されたことが確認されますと受講証のダウンロード可能になります。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

各種委員会・部会報告

[選挙管理委員会]

役員選挙について

委員長 石原 立(大阪国際がんセンター 消化管内科)

2023年の日本食道学会役員改選につきましてご連絡します。次期副会長、理事、監事が選定されます。次期副会長(第80回会長)は外科となります(役員・評議員選任規定第7条-2)。理事は、評議員であり、最近2年以内に最低1編以上の論文をEsophagusに投稿していることを要します。

選挙日程および改選数は以下の通りです。

【役員選挙日程】

告示日 : 2023年4月24日(月)

立候補受付期間 : 2023年5月8日(月)から
5月31日(水)午後5時必着

公示日 : 2023年6月9日(金)

選挙 : 2023年6月28日(水) 評議員会

【次期副会長選挙】

外科

【理事選挙】

2023年度改選理事

外科7名、内科1名、放射線科および

その他の臨床科1名、病理および基礎系1名

【監事選挙】

2023年度改選監事は外科2名、内科1名

〔会誌編集委員会〕

会誌編集委員会報告

委員長 松原 久裕

(千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学)

今年は *Esophagus* 誌発刊 20 周年となる記念すべき年です。先日の *Esophagus* 誌に Editorial として Celebrating 20 Years of "Esophagus" を寄稿しました (*Esophagus* (2023) 20:183 <https://doi.org/10.1007/s10388-023-00990-5>)。時間のあるときにお目通しいただければ幸いです。食道疾患研究会が 2003 年に日本食道学会へ発展的解消する際にもつとも重要な課題が本誌を発行するかどうかでした。日本の素晴らしい研究成果を世界に発信するためには英文誌発行はたいへん重要な業務であり、学会にする意義もまさにその点あるという認識の下、当時の食道疾患研究会の磯野可一会長と今村正之当番世話人・食道学会初代学術集会会長の指導により、最終的に発行することが決定されました。以上の様なことを中心にこれまでの歴史を簡単にまとめました。その当時の事を考えると Impact Factor を取得し、Medline に収載され迎えた 20 周年はたいへん感慨深く思います。

今年の *Esophagus* 誌ですが、昨年発刊された最新版の食道癌診療ガイドラインの英訳である *Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 1, part 2* が掲載されました。迅速な英語版を作成、投稿をいただき北川委員長、坊岡先生をはじめ委員の先生方に御礼申し上げます。是非、皆様には積極的に引用していただきますよう御願い申し上げます。

また、2022 年の Impact Factor はまだ発表されておりませんが取扱い規約、ガイドラインの端境期に当たってしまい、たいへん残念ですが低下されることが予想されます。一方で 2022 年の最優秀論文賞が学術集会の際に発表されますが、昨年に引き続き委員からの投票が多数の論文に分かれ、激しい競争となりました。以前にはなかったことであり、それだけ原著論文の質が向上してきた証だと思っております。日本からの投稿数がこの数年、頭打ちになっております。是非とも素晴らしい研究成果をどしどし、投稿いただくことを切望しております。皆様のご支援宜しく御願い申し上げます。

〔広報委員会〕

市民公開講座報告

委員長 加藤 健

(国立がん研究センター中央病院 頭頸部・食道内科)

広報委員会は、先日2023年4月23日に、第三回市民公開講座を国立がん研究センターで開催いたしました。昨年と同様、

患者団体である、食道がんサバイバーズシェアリングスさんの食道がん啓発イベント「知って備えて・学んで予防正しく知ろう食道がんの事」を午後に行い、午前に山崎誠先生を実行委員長に、「専門医が解説! 切除可能食道がんの治療」と題して日本食道学会主催の市民公開講座を行いました。昨年と異なるのは、会場に一般市民の方々をいれて、Hybrid形式(YouTube ライブ配信)で行った事です。山崎先生と、患者会の代表かつ、食道学会広報委員である高木さんのご尽力により、非常にスマートに、大変濃い内容の会が行われたと思います。来場者は50名制限をかけたこともあり、41名、YouTubeライブ配信同時視聴者は最大196名、オンデマンド視聴は3902名とまずまずの視聴回数であったと思います。今後は、食道学会の公式 YouTube チャンネルである、“食道ちゃんねる”にも、Upしていきたいと思っております。

実際に会場にきていただいたほうが、より一体感がでて、よい雰囲気になるのと、午後は女優の秋野暢子さんが登壇され、来場者とともに呼吸法をされたりと、やはり On-site はよいと思いました。一方で WEB で後から視聴できるというメリットもあり、当分 Hybrid で行うことになると思います。また、多くの患者さんが、術後の食事に強い関心を持っており、ロボットとか、DCFとか新しい治療のことより、日常診療がどうなるか、ということが一番興味をもっているところであると感じました。

現在改訂作業を進めている食道学会の患者さん向け HP でも、患者会の意見を聞きながら行っていますが、同様に、術後どのようにしたら、うまく食べれるようになるのか、ということの情報を入れてほしいという要望があり、現在その対応を行っています。

食道学会からの情報発信はこれからも重要ですが、医師がこれがイイと思っていても、必ずしも患者さんのニーズに合わない場合もあるということに気づかされた 1 日でした。

〔保険診療検討委員会〕

令和6年度診療報酬改定に向けた準備状況

委員長 坪佐 恭宏(静岡県立静岡がんセンター 食道外科)

令和 6 年度の診療報酬改定に向けて、日本食道学会としての提案状況についてご報告いたします。

【技術・新規】

1. 食道悪性腫瘍切斷術（頸部食道）（喉頭温存）（消化管再建を伴う）（頸部、腹部の操作）（血管吻合を伴うもの）の術式追加

これまで喉頭温存可能な頸部食道癌に対し、頸部食道

切除+血管吻合を伴う遊離空腸再建術が保険収載されていませんでした。今回保険収載を目指す方針といたします。

【技術・改正】

1. 脊髄誘発電位測定等加算

アンケート調査を実施し 120 施設から回答をいただきました。ご協力誠にありがとうございました。120 施設中 55 施設で術中の反回神経モニタリングを年間 792 例に実施されていました。現在の脊髄誘発電位測定等加算 (K 930-1) は 3,630 点ですが増点を目指します。

2. 内視鏡的食道狭窄拡張術の一連の限定解除

食道癌術後の吻合部狭窄例に対しては内視鏡的食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによる）が行われていますが、診療報酬点数表には「K522-3 食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）注：短期間又は同一入院期間中、回数に関わらず、第 1 回目の実施日に 1 回限り算定する。」となっています。食道癌術後の吻合部狭窄例に 1 回目の拡張術を施行し経口摂取を再開しても 1-2 週後には経口摂取困難となり 1 週間から 2 週間毎に繰り返し拡張術が必要となっている例も一定数存在します。以上より本技術の実施回数、実施間隔に関して再評価が必要と考え申請いたしました。

以上の合計 3 項目について本年 3 月末に医療技術提案書を外保連に提出しました。

〔全国登録委員会〕

全国登録委員会報告： 食道癌全国登録の進捗と 2023年度 NCD 新規研究課題について

委員長 渡邊 雅之(がん研究会有明病院 消化器外科)

平素より食道癌全国登録にご協力いただき、誠に有難うございます。食道癌全国登録は2019年にNCDに完全移行し、昨年は移行後4回目となる2016年症例の後ろ向き登録が完了しました。本年1月12日から、中断しておりました食道癌全国登録前向き登録を再開しました。2023年に施設を初診された食道癌症例を前向きに登録していただき、5年後の予後までのご入力をお願いします。また、4月20日からは2017年症例の後ろ向き登録が開始となっております。こちらは2017年に初診された症例が対象で、7月末を登録締め切りとしております。今後6年間は前向き登録と後ろ向き登録が並行して行われることになります。参加施設の皆様方にはご負担をおかけすることになりますが、前向き登録に移行することにより、登録の悉皆性やデータの正確性が向上し、より精度の高い臓器がん登録

になることが期待されます。ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

日本消化器外科学会による2023年度『NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題』を2月1日締切で公募したところ、計10課題の申請をいただきました。このうち4課題はNCDデータでは解析不能であったり過去にすでに採択済みの内容であったことから、残りの6課題を審査対象とし、持ち回り理事会で審査いたしました。審査の結果、下記の2課題を採択し、日本食道学会承認課題として日本消化器外科学会に提出しました。

①食道癌手術式の経年的変遷と低侵襲手術が術後短期成績に及ぼす影響

牧野 知紀 先生(大阪大学消化器外科学)

②胸部食道切除再建術後に併施する腸瘻造設術が術後短期成績に与える影響

竹内 裕也 先生(浜松医科大学外科学第二講座)

〔食道科認定医認定部会〕

2023年度デジタル申請システム

導入について

部会長 佐伯 浩司

(群馬大学大学院 総合外科学講座消化管外科学分野)

日本食道学会では、食道科認定医を「食道の解剖生理の研究ならびに食道疾患の診療に必要な知識を備え、その研究および診療を担当する能力を有する医師であることを本学会が公認するもの」と定めています。食道外科専門医とは違い、外科以外の診療科や基礎の先生方もその資格を有することができます。

食道科認定医の新規認定申請、更新認定申請には、定められた研究業績(論文、学会発表)と研修実績(学会出席、セミナー受講)による書類審査が必要となります。令和4年度(2022年度)は78名の新規申請があり、うち78名が食道科認定医として認定されました。また125名が食道科認定医の更新申請をされ、125名更新が認められています。この結果、食道科認定医は令和5年1月現在1,122名(終身食道科認定医37名、外科系972名、内科系93名、放射線科およびその他の臨床科19名、病理および基礎系1名)となりました。

専門的な知識を必要とする食道疾患の診療や研究を行うにあたり、ぜひ食道科認定医を取得していただき、国民の健康と福祉、そして日本食道学会の発展に貢献していただければありがたく存じます。なお、令和5年度(2023年度)の食道科認定医の更新認定申請より、従来の郵送による申請方法を廃止し、オンラインによるデジタル申請システムを新たに導入いた

します。詳細につきましては、学会ホームページに掲載しますので、ご参照ください。

〔食道外科専門医認定部会〕

2023年食道外科専門医認定試験に向けて

部会長 安田 卓司

(近畿大学医学部 外科学教室上部消化管部門)

Covid-19感染も漸く沈静化の傾向が見られ、以前の日常が戻りつつあります。幸いなことにcovid-19 pandemicの最中にかかわらず、これまで感染が理由で受験できなかった先生は一人もおられませんでした。今年はそのような心配なく試験が実施できることを祈っております。さて、新規申請に関して今年度からいくつか変更となった事項がありますので以下の点を十分ご確認ください。

【手術ビデオ症例の対象期間】「手術技術向上に取り組んだ最新の成果を提出したい」、「前年度の試験で不合格として指摘された点を十分に修正する期間が欲しい」という要望に応えるべく、以下のように2つの方式に変更となりました。<方式①>これまで通り申請年の前年までの5年間の診療経験として提出した症例の手術ビデオ、<方式②>申請年の1月から6月末までに手術した症例のビデオ。ただし後者の場合、手術ビデオの症例の手術記事の全頁のコピーを添付して提出してください。

【手術ビデオの保存形式】毎年、PCとの相性によっては再生できないDVDがありますので、より汎用性の高い保存形式に変更しました。今年度から保存するビデオのファイル形式はMPEG-4規格のmp4ファイルとし、圧縮形式はH.264に統一することとします。保存後、Windows Media Player、VLC Media Player、QuickTime Playerで再生が可能であることを確認して提出してください。

【手術ビデオ説明書】アプローチ法としてロボット支援手術を追加し、リンパ節郭清範囲として3領域/2領域の区別を記載する項目を追加しました。

【手術ビデオ審査基準】日本食道学会のH.P.上で公開していますので参考にしてブラッシュアップを図ってください。

以上、ご確認の上ご協力をお願いいたします。

なお、本年度の新規申請の受付期間は6月1日から7月31日17時まで、一次審査の結果は10月末頃に通知予定です。一次審査合格者に対する二次審査の筆記試験・口頭試問は11月25日(土)に例年通り国立がん研究センター中央病院にて実施予定です。今年はcovid-19感染の心配なく実施できると期待していますので、多くの先生の申請をお待ちしています。

〔研究推進委員会〕

2023年度日本食道学会研究課題について

委員長 河野 浩二(福島県立医科大学 消化管外科)

研究推進委員会では、食道疾患に関する研究課題を全国に公募し、例年7~9題の応募があり、委員会での厳正な審査の結果、過去9年間の間に19課題を選出、承認してまいりました。その成果は、Esophagus誌を中心に国内外に広く発信されており、食道疾患を科学的に検証し、その成果を情報発信するという、日本食道学会の活動に寄与しております。

本年度も「2023年度日本食道学会研究課題」として公募し、9課題の応募がありました。計画の科学性、実現可能性、学会主導として行う妥当性などを検討し、適切なCOI管理のもと研究推進員会で審査いたしました。その結果、下記の2課題が選出されました。応募演題はすべて優れた内容でしたが、上記の項目での審査にて選出されました。

課題1 非根治切除となった食道癌症例に対する術後治療とその治療成績

(がん研究会有明病院 食道外科)

渡邊 雅之 先生)

課題2 食道運動障害患者の疫学調査

一多施設共同横断研究ー

(川崎医科大学総合医療センター 中央検査科)

眞部 紀明 先生)

本活動は9年目となり、研究課題の充実、論文発表の活発化など、着実に成果を出しております。一方、研究課題の新規性については課題が残ります。すなわち、研究内容において、過去の課題とオーバーラップする内容もあります。しかしながら、食道疾患に関する診断、治療は数年単位で大きく進歩しており、異なる時代背景で検討を行うことは、大変有意義であると思われます。研究推進委員会では、学会主導で行う全国規模の研究をさらに推進し、食道学会の活動に寄与したいと存じます。よろしくご協力のほどお願い申しあげます。



会告：第79回日本食道学会学術集会



京都大学大学院医学研究科
腫瘍薬物治療学講座

会長 武藤 學

第79回日本食道学会学術集会会長を拝命した京都大学医学部附属病院腫瘍内科の武藤 學と申します。歴史ある本学会学術集会を主催できることを大変光栄に思うとともに、ご指名いただいた本学会員の皆様に心より御礼申し上げます。また、これまでの諸先輩方のご功績に恥じないよう教室あげて尽力する所存です。さて、第79回日本食道学会学術集会は、令和7年6月26日(木)～27日(金)の期間で京都国際会議場で開催する予定です。京都での本学会開催は第40回の食道色素研究会(昭和61年、戸部隆吉先生、京都大学)、そして食道学会に移行した記念すべき第57回(平成15年、今村正之先生、京都大学)以来であり、内科系の会長は、令和3年の第75回(岩切勝彦先生、日本医科大学)以来となりますので、その重責に応えるべく内容を企画したいと思いますので御協力のほど宜しくお願ひ申し上げます。令和7年はコロナ禍も完全に収まり、平常に戻っている時期だと思いますので、ぜひ多くの方が現地で参加できることを期待しています。皆様と京都でお会いできるのを楽しみにしていますので、宜しくお願ひ申し上げます。

2024年以降の学術集会のご案内

◆ 第78回日本食道学会学術集会

会長：渡邊 雅之(がん研究会有明病院 消化器外科)
会期：2024年7月4日(木)～5日(金)
会場：ステーションコンファレンス東京

◆ 第79回日本食道学会学術集会

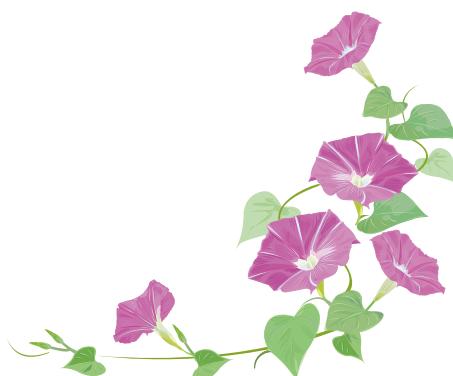
会長：武藤 學(京都大学大学院医学研究科
腫瘍薬物治療学講座)
会期：2025年6月26日(木)～27日(金)
会場：京都国際会議場

*編集後記

広報委員会として、情報発信を進めていく上で、とくに情報伝達のスピードが速くなっていますこと、そして情報を伝えるツールがどんどん多様化していることに驚かされます。一昔前は紙媒体をじっくり吟味して出版していたのが、最近の世代では、電子媒体、しかも、自分たちでSNSで動画を作成し、非常に短いもののほうが好まれる傾向にあるようです。情報を早く多数の人々に届けることができる一方、中途半端な情報が独り歩きする懸念もあり、情報によって、発信の方法をうまく使い分けることの必要性を考えていますが、なかなかむつかしいです。また海外の研究者をつなぐためにも、動画サイトや、HPの充実を図っていく必要があります、そのあたりについても、今後検討ていきたいと考えています。やることが多いので、皆様のご協力を期待しております。

広報委員会

委員長 加藤 健
副委員長 坪佐恭宏
委 員 神宮啓一、山崎誠、竹内裕也、村上健太郎
有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一、白川靖博
山辻知樹、浜本康夫、坂中克行、野村基雄
矢野友規、川田研郎、高木健二郎



特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012
東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階
電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233
e-mail: office@esophagus.jp
ホームページ <http://www.esophagus.jp/>